

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.54
2020 12 月号
[December]



連載

自工会「新しい委員会・部会体制」紹介②

自動車業界ワンチームで
感染症対策と支援活動を展開④

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

三菱自動車工業／本社シヨールーム

2020年12月-2021年1月主要自動車関連イベント

今年のモータースポーツ・自動車イベントもいよいよ締めくくりです！

現地に行かれる場合は、引き続きの感染症防止対策を！




モータースポーツではオンライン観戦の活用も！

 は四輪車レース

 は二輪車レース

国内イベント		
日時	場所	名称
12月 7日	オンライン開催	日本カーオブザイヤー最終選考会・表彰式
11月16日-12月18日	オンライン開催	ET & IoT Digital 2020
1月 15-17日	千葉県 幕張メッセ	TOKYO AUTO SALON 2021

海外イベント		
日時	場所	名称
12月 2-13日	タイ バンコク	第37回 Motor Expo
1月 11-14日	オンライン開催	CES2021

国内モータースポーツ		
日時	場所	名称
12月 5-6日	三重県 鈴鹿サーキット	 スーパーフォーミュラ 第5・6戦
13日	大分県 オートポリス	 スーパー耐久 第5戦
20日	静岡県 富士スピードウェイ	 スーパーフォーミュラ 第7戦

海外モータースポーツ		
日時	場所	名称
12月 3-6日	イタリア モンツァ	 WRC 第7戦 ラリー・モンツァ
6日	バーレーン バーレーン・ インターナショナル・ サーキット	 F1 第16戦 サヒールGP
13日	アラブ首長国連邦 ヤス・マリーナ・ サーキット	 F1 第17戦 アブダビGP

JAMAGAZINE 2020年 12月号

発行日 2020年12月7日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



02 自工会 「新しい委員会・部会体制」紹介②

05 **連載**

自動車業界ワンチームで 感染症対策と支援活動を展開④

08 自工会ニュースリリース

10 自動車工業4団体の コロナ対策事例紹介

12 2020年 秋の叙勲・褒章

14 「ノーマルタイヤNO!!」チラシに込めた想い

15 発刊 安全すてきなカーライフPASSPORT

16 自動車博物館関連施設紹介シリーズ 三菱自動車工業／本社ショールーム

17 **記者の窓** 「21歳で初めて買った中古車」 日本経済新聞社 平塚 達

1 2 自動車業界ワンチームで感染症対策と支援活動を展開④

3 2020年 秋の叙勲・褒章

4 三菱自動車工業／本社ショールーム

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)



自工会「新しい委員会・部会体制」紹介②

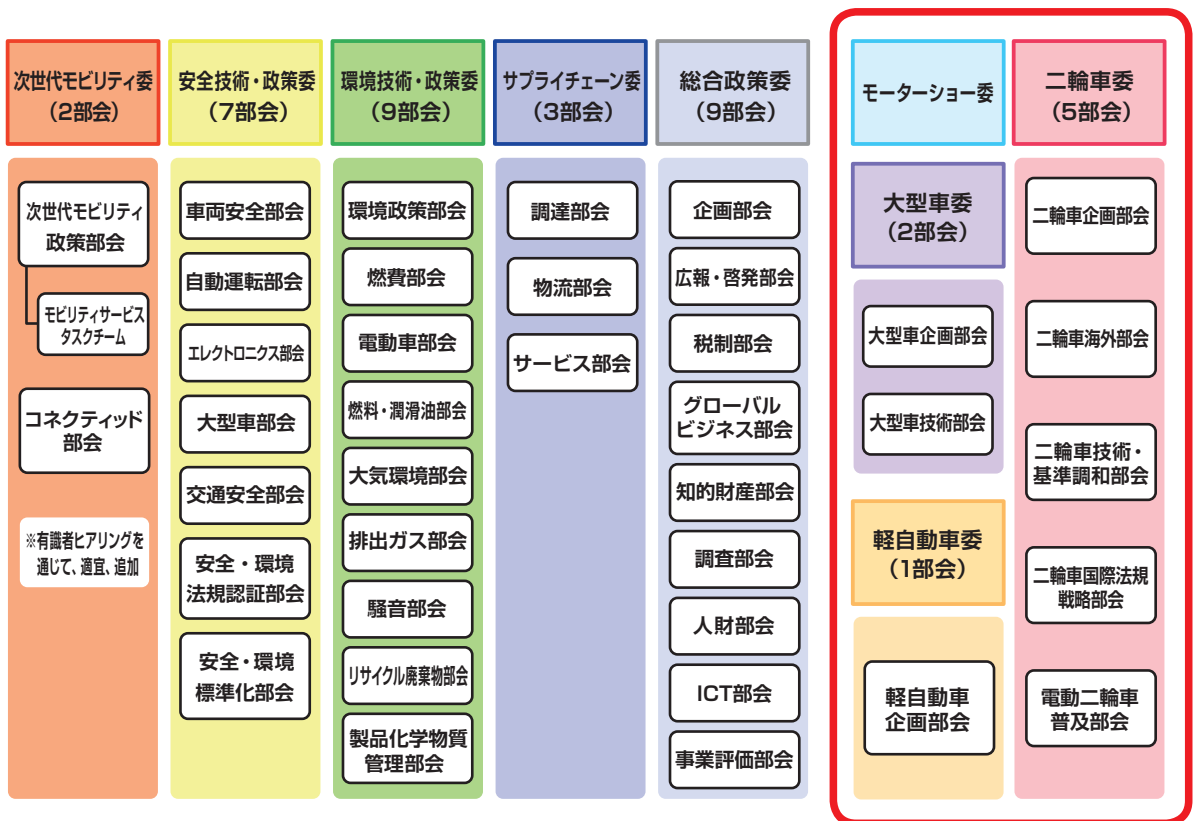
先月11月号に引き続き、今月号では、
車種別の「二輪車」、「軽自動車」、「大型車」と、「モーターショー」
それぞれの委員会変革についてご紹介します。



《運営の基本》

- 理事会は名実ともに自工会運営の中心となり、実質的な議論、決定の場
決定機関は理事会、委員会以下が事業執行に注力
- 委員会以下は全社参加義務から脱し、志を共にする者で共通目的に向け邁進する
組織多層化は正、委員数スリム化、事業推進は実質的に部会が担う
- 常にオープンでフェアな透明性の高い事業運営を基礎とする
法令遵守(独禁法/不競法等)、会員間情報共有・コミュニケーション活性化(情報格差回避)

新委員会・部会編成



今回紹介する委員会組織

二輪車委員会の変革

変革のポイント

世界の二輪車市場・産業の発展をリード、二輪ファンの育成・拡大

重点取り組みテーマ

国際基準、特に電動二輪車の標準化・法規整備（環境技術政策委と連携）

■ビジョン（目指すべき姿）

モビリティとしての二輪車を通じ、人々の暮らしに「感動」を届け、日本経済・社会の発展、雇用創出に貢献、世界の二輪市場と産業の健全な発展をリード

■変革ポイント、重点テーマ

- 二輪車委のビジョン・ミッション定義
- 各部会の役割・機能・事業を再考
- 部会間の連携強化
- 「電動二輪車」の標準化・法規制定への体制強化

- 世界の二輪市場と産業の健全な発展をリード、二輪ファンの育成・拡大
- 事業性・実効性を考慮した国際法規制定をリード
 - ―特に、アジアでの基準調和を主導
- 電動二輪車の標準化・法規整備

軽自動車委員会の変革

変革のポイント

地方活性化、交通弱者対策を推進

重点取り組みテーマ

軽ユーザーの声に耳を傾け「あるべき軽の姿」を定め事業展開
過疎地ライドサービス、軽トラ市、災害時支援

■基本的な考え方

「地方活性化」や「交通弱者」など
モビリティ課題への対策推進

コロナ禍や大規模災害等での軽自動車を
始めとするモビリティへの期待を探り、
自工会全体の事業活動に貢献

■重点取り組みテーマ

1. ユーザー視点に立った取組み

- コロナ禍での使用実態、困り事など軽ユーザーに耳を傾け「あるべき軽の姿」を見出す
- 軽としての災害時の被災地支援、仕組み構築（非常時の移動手段提供）

2. 「地方活性化」への取組み

- 軽自動車のCASE・MaaS、過疎地ライドサービス（次世代モビリティ委と連携）
- 軽トラ市開催支援、全国展開（含むTMS）

3. 更なる安全性向上の取組み

- 予防安全技術（AEB装着率アップ）、軽安全性の啓発強化

大型車委員会の変革

変革のポイント

CASE、MaaSへ車種を越え積極参画、
同時に商用特有課題へ4社協調で取り組む

重点取り組みテーマ

大型車脱輪対策、隊列走行、国際基準作り

■CASE、MaaS等の新領域事業において、
車種を超えた全社的議論に積極的に参画するとともに、
商用4社特有の取り組みに対応。

■大型車委員会においては、商用車の脱輪対策や隊列走行、
また、国際的な規格づくりにおける国際連携等、
物流・人流に関わる社会課題に4社協調で取り組み、
その解決を通じて社会の発展に貢献することを目指す。

モーターショー委員会の変革

変革のポイント

東京モビリティショーへのチャレンジ、新パートナーとの協調

重点取り組みテーマ

ワンチームでの体制構築と推進力強化

■ビジョン(目指すべき姿)

東京モビリティショーへのチャレンジ／新たなパートナーとの協調

■変革ポイント、重点テーマ

▶ワンチームでの体制構築と推進力強化

- ・実行力ある組織
- ・スムーズな意思決定
- ・提案力の強化

未来のモビリティ社会や移動・サービスの価値観を表現・訴求、
自工会事業の集大成をモーターショーの場で表現・訴求



「自動PCR検査システム」開発

自動PCR検査システムのデモ設備を公開【川崎重工】

重工メーカーの川崎重工(橋本康彦社長、神戸市中央区)は10月22日、新型コロナウイルス向け自動PCR検査システムのデモ設備を東京ロボットセンター(東京都港区)で報道陣に公開しました。感染リスクを伴う検査をロボットで無人・自動化し、検体受付から病院との連携による結果通知まで80分以内で実施できるのが特長です。同社は2021年にも、この検査サービスを開始します。まずは国際的な人の往来の減少で大打撃を受ける航空業界の需要回復に向け、国内外の国際空港で搭乗前検査への導入を目指しています。

■経済復興に向け、人の流動化を促進

新型コロナウイルスの感染拡大は人々の行動を制限し、さまざまな産業に大打撃を与えました。この解決策として川崎重工が打ち出すのが自動PCR検査システムによる検査サービスです。経済復興に向け、世界中で人の流動化を促進することが求められています。同社の社長直轄プロジェクト推進室の辻浩敏室長は「飛行機に搭乗する皆さんが安心して出発できるようにしたい」と同システムを開発する意義を説明します。当初は検査の無人・自動化で作業者の感染リスクを減らし、医療崩壊を防ぐことが最大の目的でした。しかし、コロナ禍が長期化する中で、疲弊したグローバルでの経済活動の再開・復興や21年夏の東京オリンピック・パラリンピックが控えることから、ビジネストラフィックを回復することも喫緊の社会課題として同社は捉えています。

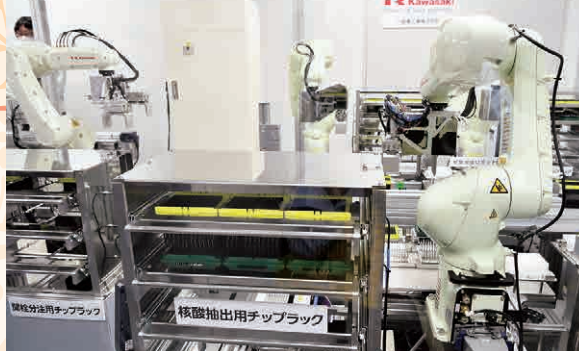
現行のPCR検査は被検者から採取した唾液や鼻咽頭ぬぐい液などの検体を検査センターま

で輸送していたため時間を要していました。現在、いくつかの空港内で検査を行う施設が整備され始めたところです。

PCR検査は、①分注・不活化②核酸抽出③PCR測定④3工程で構成されています。輸送時間だけではなく、分注や核酸抽出など人手のかかる作業があり、多数の検体を一度に処理する事で逆に時間が掛かる要因ともなっています。また、人が介在することで感染リスクも必然と高まることとなります。

■ロボットによる無人・自動化で検査能力が向上

川崎重工が開発する検査システムは、検査の現地化やロボットによる無人・自動化でこうした課題を解決します。検査システムはコンテナにパッケージ化できるため、トレーラーによる搬送で全国どこにでも移動させることも可能です。サイズは2.5m×12.5m(40フィートコンテナ)。ロボットの活用で医療従事者の負担も大幅に軽減します。検査能力は1コンテナ当たり16時間で約2千検体です。



ご参考 川崎重工の検体採取後の自動PCR検査の工程

- 1 開栓分注工程は、検体採取の場所からベルトコンベアで運ばれてきた容器を開栓し、核酸抽出工程用に分注すると核酸抽出工程に搬送します。
- 2 核酸抽出工程は、採取した検体に試薬（物質を化学的方法で検出するのに使う薬品）を分注し反応させることで、核酸を抽出します。ロボットの台数を増やすことで処理能力を上げることも可能です。
- 3 試薬調整工程は、遺伝子増幅（PCR）に使用するための試薬を調整します。試薬は配合後短時間で使用できなくなるため、PCRセットアップ工程の直前に配合します。
- 4 核酸抽出した検体と試薬調整工程で配合した試薬をPCR処理装置（サーマルサイクラー）にセットし、検査を行います。検査結果はコンピュータを介して取得することが可能です。
- 5 検査結果のデータは医療機関に送信し、医師の判断に基づいて陰性証明を発行します。

検体採取から結果通知までを80分以内で完了し、「受付から換算して約120分で陰性証明を発行できる」「辻室長ことを目指しています。現行の検査システムがPCR測定の部分だけで210分かかるところを考えると大幅な時間短縮が可能になります。

検査システムには世界的に承認を受けた検査方式「RT-PCR検査」を採用しています。世界標準のPCR検査を実施するこ

とで、相手国の了承は必要になりませんが、発行した陰性証明を相手国への入国に利用しやすくなると考えており、実現できれば「現地で14日間待機することなく、商談などすぐにビジネスに取り掛かることができる」「辻室長ことで経済復興に近づくとができます。

■検査費用も大幅に抑えることが可能

同社は自動PCR検査システムの販売をメインにするのではなく、自社で空港やイベント会場で検査サービスを提供することを計画しています。想定価格は1万円を目指しています。市中病院の自由診療では「輸送費やクラスター（感染集団）発生を考慮した費用となっている」辻室長のため、3万〜5万円が相場となっております。検査の現地化や無人・自動化によって、価格を大幅に抑えることが可能になると見込んでいます。空港や地元自治体、経済産業省や厚生労働省、外務省などの関係省庁との調整が整い次第、早ければ2021年の初めにもサービスを開

始する予定です。

検査サービスは陰性が確定できない被検者が出た時も手厚い対応を行います。空港やイベント会場などから医療機関への送迎サービスを近隣交通会社と契約して実施することも検討しています。運転者と非陰性者が金銭のやり取りなど直接接触しない工夫を考えています。検査サービスを提供する場合の自治体や医療機関とも連携し、非陰性者を速やかに医療機関に移送する体制を整えます。

■医療従事者の安全性確保、負担軽減

また、鼻咽喉ぬぐい液を採取する遠隔操作用ロボットの開発も進めています。現在は、スワブと呼ばれる綿棒状の検体採取キットを使って手作業で採取しています。採取には1人当たり2〜3分必要で、PCR検査の検体として認める国が多い一方で、採取に時間が要するのが欠点でした。また、スワブを被検者の鼻に入れるとくしゃみや咳で唾液や鼻水が飛び散ることが多く、医療従事者が身に着ける

ガウンなどが被曝し、採取を続けるためにはガウンを着替える必要がありました。ロボットにはそうした煩雑さはなく、世界的に認められている検体の鼻咽喉ぬぐい液を人手で行うよりも同じ時間で10倍前後の人数をこなすことが可能になります。ロボットを遠隔操作する医療従事者は、スワブの先端にどのくらい圧力がかかっているか、鼻の中心に何センチ入ったかをデータで把握できます。これ以上は危険と判断すると、自動で止まるように制御する「辻室長など安全性も考慮しています。

保有するロボット技術の活用で、医師や医療従事者の負担を軽減し、PCR検査に必要な人件費と被検者の負担を軽減します。こうした画期的な検査サービスは日本のみならず、世界の主要空港にも提案する計画です。「世界の主要な空港近くに拠点を展開する」「辻室長強みも生かします。来夏の東京オリンピック、パリンピックでは空港だけでなく、選手村や競技会場近くのスペースに設置することで本格的な検査サービスを提案することも想定しています。

川崎重工
社長直轄プロジェクト推進室室長

▶▶▶ ^{つじ ひろとし}辻 浩敏氏が語る

感染リスクの低減と経済復興に向け カンパニー横断のプロジェクト

川崎重工は2020年度の初めから、ロボットを用いた移動式自動PCR検査システムの開発に取り組んでいます。当社の複数のカンパニーを横断したプロジェクトで、社長直轄プロジェクト推進室を中心に全社を挙げて実用化を目指しています。21年の早い時期には自動化した検査システムを使った検査サービスを空港やイベント会場など陰性証明を発行することで安心と安全が求められる場所で提供していきたいと考えています。

検査システム開発の目的は、医療従事者の感染リスクの低減に加え、経済復興に向け、人の流動化を促進することです。特に空港関係のPCR検査は、世界で重要性が増しています。利用者は飛行機に搭乗する直前に自身が陰性であることが分かれば、安心して空の旅に出てもらうことができます。われわれのシステムを用いて医療機関により発行された陰性証明が渡航先の国でも承認されれば、現地

で14日間待機を強いられることなく、商談などビジネスに出向けるようになり、経済復興のスピードを高められると考えています。

現行のPCR検査は時間が掛かることが課題でした。なぜなら、被検者から唾液や鼻咽頭ぬぐい液を検体として採取し、1バッチ当たり96検体をまとめて検査会社が所有する拠点に輸送して検査するのが一般的だからです。国内の主要空港では多数の空港が検査のために検体を、県を跨いで輸送する必要があります。こうした検査以外の工程で時間を取られることが、現行システムのそもそものボトルネックになっています。もう一つは、検体採取や検査工程の開栓分注や核酸抽出に人手がかかることがあります。そこには時間がかかるうえ、感染リスクも孕んでいます。

これら2つの大きな課題を解決できるのが自動PCR検査システムです。全国どこでも一貫したPCR検査サービスの提供が可能で、ロ



ボットによる無人・自動化で感染リスクも検査時間も低減させます。検査システムのサイズも船の輸送で使われる40フィートコンテナに収まるサイズで、人ならば密になりますが、ロボットではまったく問題ありません。

検査システムは販売するのではなく、検査サービスへの活用を考えています。空港会社などが費用面で二の足を踏むことを避けたいからです。検査サービスに積極的に関わることで、航空トラフィックの回復に全力で取り組みたいと考えています。

大型車メーカー4社 大型トラックの車輪脱落事故 防止対策を協調して対応

4つのルール「お・ち・な・い」の徹底と 『連結式ナット回転指示インジケーター』の活用

一般社団法人日本自動車工業会(会長:豊田 章男、以下「自工会」)は、大型車メーカー4社^{※1}(以下「大型4社」)で構成する大型車委員会(委員長:下 義生)の活動を通じ、官民一体となった大型車の車輪脱落事故防止の取り組みを進めています。大型4社は、大型車の車輪脱落事故防止のために、国土交通省や関連する業界団体と連携して、適切なタイヤ交換作業の方法の啓発に継続して取り組んできました。しかしながら、昨年度の事故発生件数は、対前年度31件増の112件と増加しています。この状況を重く受け止め、従来の啓発活動に加え、ナットの緩み点検が容易にできるよう、国土交通省と連携^{※2}して『連結式ナット回転指示インジケーター』(隣り合うナットを連結する樹脂製の市販部品。緩みに伴う変形により、目視でナット緩みを確認可能)を活用した取り組みを進めることとしました。



▲連結式ナット回転指示インジケーター

大型4社は、安全を始めるため、後輪への装着を推進してまいります。

※1:いすゞ自動車株式会社、日野自動車株式会社、三菱ふそうトラック・バス株式会社、UDトラックス株式会社

※2:大型4社は、昨年度から、国土交通省「大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査検討ワーキンググループ」に参画。事故原因の徹底究明と効果的な対策への協力・検討を行ってきた。10月末には、国土交通省から「中間とりまとめ」が纏められたことを踏まえ、大型車の車輪脱落事故防止に係る令和2年度緊急対策が通知された。(国交省緊急対策Web:<https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha/tenkenseibi/tenken/t2/t2-1/>)

※3:『連結式ナット回転指示インジケーター』は、自工会が使用している名称であり、国土交通省が「ホイールナットメーカー」と説明しているものに相当します。

大型4社、大型トラックの 車輪脱落事故防止の取り組み

①「お・ち・な・い」の啓発継続車輪脱落事故を防ぐ 4つのルール「お・ち・な・い」

①規定トルクでの締め付け、②増し締め徹底、③日常点検の実施、④適合ホイールボルト・ナットの使用の徹底について、国土交通省や関連する業界団体を通じ、引き続き啓発に取り組みます。ま

②『連結式ナット回転指示インジケーター』^{※3}の活用

「今できることを、直ぐやる」スタンスにより、日常点検の容易化が図れ、事故低減に効果が見込める同部品の活用を、国土交通省と連携して推進することとしました。

めとする様々な社会的課題に連携して積極的に取り組み、人と物の自由で安全な移動の確保に貢献してまいります。

た、最近ではホイールやホイールボルトナットの著しい錆が原因と思われる車輪脱落事故の発生が確認されており、著しい錆のあるホイールやホイールボルト・ナットの交換をボスター等で促します。

職場のコロナ対策に役立てていただきたい!



ここでは、4団体会員会社の代表的な対策事例などを紹介します。

工夫や手法を4団体のHPで公開 自工会、部工会、車工会、自機工

新型コロナウイルス感染症「COVID-19」に対応し、自工会をはじめ、自動車工業4団体は一丸となり、感染拡大の防止策を展開しています。4団体の活動は自動車の開発、製造、物流から、部品、素材、技術、車体、機械工具類まで様々な分野に及び、それぞれの団体で独自のコロナ対応策を実施していますが、これらの工夫、手法、経験値を幅広く共有し合えば、自動車業界として困難に立ち向かうことができます。加えて、工夫や手法は他の業界、業種にも応用できます。

そこで、このほど自工会、部工会、車工会、自機工の4団体は「職場の対策にご苦勞されている企業に、お役に立てて頂きたい」との想いから、4団体HP内に「コロナ対策事例ページ」を開設し、広く工夫や手法を公開しています。社内の感染症対策のご参考としていただければ幸いです。

自工会会員自動車メーカーでの事例

製造現場での新型コロナウイルス予防策を示すとともに、他の業界、業種の参考になるように具体的な「事例集」もあります。

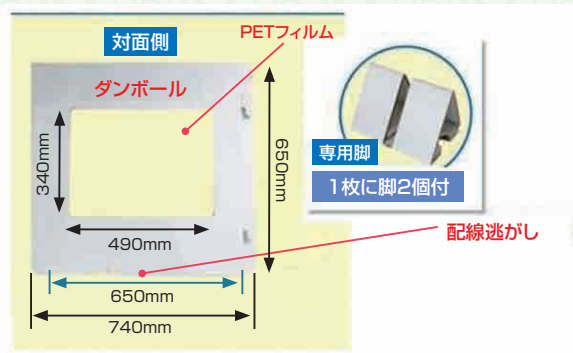
製造現場での新型コロナウイルス感染症予防対策事例

1. コロナウイルス感染防止の取り組み
2. 感染対策の運用・ルール

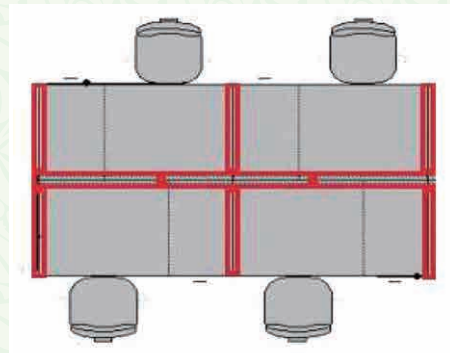
- | | |
|--------------------------|--|
| (1) 会議開催ルールの設定 | 会議という閉鎖された空間での感染リスク低減 |
| (2) 間接&直接職場の事務所における消毒ルール | 手指のウイルスを除去し粘膜からの感染防止 |
| (3) パーテーションの設置 | 飛沫防止対策の強化
短時間▶パーテーション越しで行う。
長時間▶2m以上距離をとる。 |

《ご参考》

パーテーション概要



設置例(4席9枚)



「現場編」と「事務所編」に分かれた事例集もあり、ここでは現場編《換気の悪い気密空間の飛沫感染防止》と、事務所編《社内感染の未然防止／社外の方と接触管理》を紹介します。

新型コロナウイルス感染防止策

換気の悪い気密空間の飛沫感染防止

- ◆感染防止対策内容
部屋の中の作業場は
間仕切り、出入りドアを
を開け常時換気
- ◆効果／狙い
換気の悪い密閉空間の
飛沫感染防止
- ◆工夫
作業に影響が出ない
箇所をオープン



社内感染の未然防止／社外の方との接触管理

- ◆感染防止対策内容
来客者の健康チェック
＜確認内容＞
・会社名・氏名・入退場時間
・体調・検温結果
・濃厚接触者でないかなど
- ◆効果／狙い
社内感染の未然防止
社外の方と接触管理
- ◆工夫
来客者全員に対し記録保管



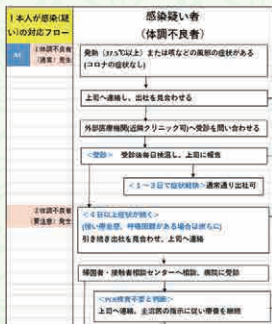
部工会会員部品メーカーでの事例

感染者（疑いも含む）発生時の対応フロー等を細かく示している事例を紹介します。

新型コロナウイルス感染防止策

感染者発生時の対応フロー作成

- ◆感染防止対策内容
医療職用の感染者（疑い含む）
発生時の対応フローを作成
- ◆効果／狙い
感染者および濃厚接触者等が
発生した際に各工場医療職が
統一した対応が出来る
- ◆困り事／苦勞／工夫
工場によって状況が異なる為、
調整に苦慮。状況が変わるに
合わせ、随時内容変更を実施



職場の定期清掃：共有備品の除菌と清掃

- ◆感染防止対策内容
職場毎に時間を決めて共有備品の除菌と清掃を実施し、内容を記録
- ◆効果／狙い
感染者や濃厚接触者が発生した際の感染履歴として使用し、濃厚接触者の判断材料として活用



新型コロナウイルス感染予防 消毒チェックシート				
2020年 8月		消毒時間	消毒場所	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者
消毒場所	消毒時間	消毒者	消毒時間	消毒者

従業員食堂の動線コントロール

- ◆感染防止対策内容
配膳時の待機場所、移動ルートを床面に表示し、動線と待機時の間隔を明確化
- ◆効果／狙い
ソーシャルディスタンスを確保して感染を防止
- ◆困り事／苦勞／工夫
ソーシャルディスタンスの確保に
不徹底な面があり、更なる工夫が必要



トレー置き場



配膳ルート



給湯器

叙勲 トヨタ自動車株式会社・会長の内山田竹志氏に旭日大授章



《経歴》

内山田 竹志氏（うちやまだ・たけし） 1946年8月17日生

【学歴】名古屋大学 工学部応用物理学科 卒業

【職歴】1969年4月トヨタ自動車工業株式会社（現、トヨタ自動車株式会社）入社。

'94年1月に第2開発センター第2企画部主査、'96年1月に第2開発センターチーフエンジニア、'98年6月に取締役就任。その後'01年6月常務取締役、'02年に第1開発センター・センター長、'03年6月に専務取締役、'04年6月に生産管理・物流本部本部長などを経て'05年6月に取締役副社長に就任。'12年6月に取締役副会長を経て'13年6月より取締役会長（現在に至る）。

世界初の量産ハイブリッド車開発を通じ、エコカーのグローバルな普及拡大などに貢献。

【賞罰】2015年4月に藍綬褒章受章。

『受章喜びの声』

このたび、旭日大授章の栄誉を賜りましたことは、身に余る光栄でございます。今回の受章は日本はもとより世界各国のお客様をはじめ、多くの方々のご指導、ご支援を頂きながら、共に仕事に取り組んで参った結果であり、皆様に深く感謝申し上げます。

この栄えある受章を励みといたしまして、コロナ禍の困難な状況を皆様とともに乗り越え、産業、経済、社会の更なる発展にいささかなりともお役にたてるよう、今後も引き続き微力を尽くして参る所存でございます。何卒、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

（2020年11月3日）



▲受章に際し自工会にも足をお運びいただいた

叙勲 日本自動車工業会カナダ・専務理事デビッド・ワーツ氏に旭日中授章



《経歴》

デビッド・ワーツ氏 1948年トロント生

【学歴】1971年にトロント大学（経済学・哲学）卒業、73年にヨーク大学（芸術学）修了

【職歴】1975～1981年にJETROトロント/ジャパントレードセンター機械展示部およびJETROトロントにてプロジェクト・マネージャー、81年に展示設計コンサルタントとしてコンテキストデザイン社を設立（JETRO主催展示会等を担当）、84年にJAMAカナダにてゼネラルマネージャー、92年に同専務理事（現在に至る）。

【賞罰】2019年にカナダでの活動に対し、在カナダ日本国大使館の在外官庁表彰を受賞、今回の叙勲につながった。

【所属団体】カナダ商工会議所、在日カナダ商工会議所、ジャパン・ソサエティー（2016年12月より会長、現在に至る）、自動車アナリスト協会、ヒューロン・サセックス自治会

『受章喜びの声』

このたび、栄誉ある叙勲を賜り大変光栄に存じます。これはひとえに、包括的及び先進的な環太平洋パートナーシップ協定（CPTTP）はじめとする、貿易政策や自由貿易の多様化に関する私どもの一丸となった持続的な取り組みの成果であり、すべてのJAMA会員企業JAMA本部ならびにワシントン事務所のスタッフ、そしてJAMAカナダ会員企業の皆様からの、36年間にわたる永続的な支援に心より感謝いたします。また、ジャパントレードセンターならびにJETROトロントについても、在職時の格別懐かしい思い出がございます。JETROでの経験と人脈は、その後1984年のJAMAカナダ入会に直接つながったことから、私のキャリアにおいて欠かせない時間でした。今回の栄誉をカナダ、日本、米国にいる同僚、友人、そして家族と共有できることを大変嬉しく光栄に思います。

褒章 日野自動車株式会社・代表取締役会長の市橋保彦氏に藍綬褒章



《経歴》

市橋 保彦氏 (いちはしやすひこ) 1952年3月22日生

【学歴】岐阜大学 工学部精密工学科 卒業

【経歴】1974年4月にトヨタ自動車工業株式会社(現、トヨタ自動車株式会社)入社。

'99年1月に第2開発センターチーフエンジニア、'03年6月に常務役員に就任。その後、'04年6月にトヨタテクニカルセンターU.S.A株式会社取締役社長、'06年4月にトヨタモーターエンジニアリングアンドマニュファクチャリングノースアメリカ株式会社執行副社長、'08年6月にトヨタ自動車株式会社専務取締役、'10年6月に関東自動車工業株式会社(現、トヨタ自動車東日本株式会社)取締役副社長、'12年6月に日野自動車株式会社取締役副社長などを経て、'13年6月取締役社長に就任。'17年6月に代表取締役会長に就任(現在に至る)。

【受章喜びの声】

このたび、藍綬褒章受章の栄に浴し身に余る光栄に存じます。

1974年以来、トヨタ自動車、関東自動車工業(現トヨタ自動車東日本)、日野自動車と永年に亘り、乗用車から商業車に至るまで、幅広く自動車産業に携わって参ることができましたことをとても幸せに思うとともに、この栄誉を授かりましたことに大変感謝しております。お客様、取引先様、販売店様、諸先輩並びに本当に多くの皆様からのご指導、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

この栄を励みと致しまして、今後も微力ながら自動車業界、社会の発展に貢献できるよう精進を重ねてまいります所存でございます。(2020年11月2日)

褒章 元トヨタ自動車株式会社・副社長の須藤誠一氏に藍綬褒章



《経歴》

須藤 誠一氏 (すどうせいいち) 1951年4月21日生

【学歴】東京理科大学 理工学部機械工学科 卒業

【経歴】1974年4月トヨタ自動車工業株式会社(現、トヨタ自動車株式会社)入社。

'98年1月に生産管理部新車進行管理室室長、'03年6月に常務役員に就任。その後、'05年6月にトヨタモーターマニュファクチャリングノースアメリカ株式会社社長、'08年6月にトヨタ自動車九州株式会社取締役社長、'12年1月にトヨタ自動車株式会社専務役員、生産管理本部本部長、製造本部本部長、'13年4月にユニットセンター・センター長などを経て、同年6月に取締役副社長就任。'16年6月に相談役就任、'18年6月に相談役退任。

【受章喜びの声】

このたび、藍綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。

1974年にトヨタ自動車に入社以来、一貫して生産技術、生産部門に携わって参りました。経済の急速なグローバル化が進む中で、海外生産の拡大・現地化を進める一方で、国内においては、製品開発と生産技術の一体化にも取り組み、開発のスピードアップや競争力強化に務めて参りました。この間、諸先輩並びに多くの関係者の方々のご指導とご支援を頂きながら、仕事に取り組みことができ、微力ながらも自動車産業の発展にいささかなりともお役に立てましたことは、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

この栄えある受章を励みといたしまして、社会の発展に少しでも貢献できるようさらに精進を重ねて参る所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。(2020年11月2日)



冬道
を走るなら

ノーマルタイヤ NO!!

冬場になると、道路の積雪や凍結により、ノーマルタイヤを装着した車両が立ち往生して、深刻な交通渋滞や通行止めを引き起こしています。

積雪・凍結道路で
すべり止めの措置をとらない運転は
法令違反となります。

都道府県道路交通法施行細則または道路交通規則にて積雪または凍結した路面での冬用タイヤの装着等いわゆる防滑措置の義務が規定されています。(沖縄県を除く)
違反行為は、反則金の適用となります。(大型：7千円、普通：6千円、自動二輪：6千円、原付車：5千円)

※タイヤチェーン未装着車の通行を禁止する規制時は、冬用タイヤであっても、タイヤチェーンの装着が必要です。

一般社団法人日本自動車タイヤ協会

▶
チ
ラ
シ

チラシに
込めた思い

しっかり冬装備をすることを啓発!

日本自動車タイヤ協会
西堀 健太 氏



首都圏などの非降雪地域では、ひとたび雪が降ると、ノーマルタイヤの車両が立ち往生し、深刻な交通渋滞や通行止めを引き起こしています。積雪・凍結路ですべり止めの措置を取らない運転は法令違反(沖縄県を除く)となることをドライバーの皆様にご存知いただき、しっかり冬装備をすることを啓発し、冬道における交通安全に寄与できればと願って、このチラシを制作致しました。

発刊

安全すてきな カーライフ PASSPORT

自工会は11月4日に冊子「安全すてきなカーライフPASSPORT」を発刊いたしました。

カーライフをもっと安全に、すてきに楽しむため、「過信は禁物！クルマの安全装備」「うっかり事故はこう防べ！」「どうする!?こんなときの3つの項目ごと」に自動車を運転する際に知っておくべき内容をまとめています。全国の販売店などで冊子配布を行うとともに、HP上でもPDF版を公開しております。

PDF版のダウンロードは
こちらから▼



<http://www.jama.or.jp/user/carlife/>



今回は災害時や車中泊の際、車内で家電製品を使用することができるAC電源供給機能について、安全すてきなカーライフPASSPORTからご紹介します

クルマから電源を取って電気製品を使うときは

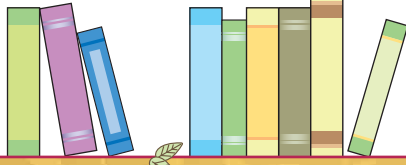
AC100Vの電気製品が使用できるアクセサリコンセントを装備したクルマがあります。誤った使用は電気製品の故障や事故につながるおそれがあります。電気製品の取り扱い説明書も併せて読み、正しくご利用ください。

AC100V・1500Wコンセント搭載電動車から
電気製品への給電に関するご注意について

詳しくはこちらも併せてご覧ください▶

<http://www.jama.or.jp/etc/20201112/index.html>





CAR Manufacturer
自動車博物館 関連施設
 紹介シリーズ

三菱自動車工業／本社ショールーム

三菱自動車を身近に感じて頂く事をコンセプトに、最新の三菱車をお気軽にご覧頂ける、本社ショールーム。

三菱自動車工業株式会社(本社:東京都港区、代表執行役員COO:加藤隆雄)は、東京都港区の本社に隣接するビルの1、2階に、新しく本社ショールーム[愛称:MI-Playground(マイプレイグラウンド)]を9月1日に開設しました。三菱自動車のブランドメッセージ「Drive your Ambition」を体現した最新モデルを展示するとともに、フルーツティーとスイーツのティースタンドも備えています。



1階:ショールームエリア

ショールーム内はコーポレートカラーの白と黒を基調色に、シンプルでモダンなデザインになっており、最新モデルの三菱車が展示されています。自由に見て、触れて、車内にも乗れ、誰からも身近に感じていただけるショールームを目指しています。

2階:サテライトエリア(ティースタンド)

JR田町駅から繋がるペDESTリアンデッキ(歩行者用通路)に面したサテライトエリアでは、オーガニック茶葉とこだわりのドライフルーツを使った、今人気のフルーツティーやスイーツを販売しております。



インフォメーション

■三菱自動車工業／本社ショールーム

住所 東京都港区芝浦3丁目1番1号 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 1F/2F

営業時間

1階 10:00~19:00 2階 10:00~21:00
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在、1階ショールーム:11:00~18:00、2Fティースタンド:10:00~20:00の短縮営業とします。またお客様・従業員の安心安全のため、マスク着用、定期的な換気、消毒清掃、適切なソーシャルディスタンスの確保などの取り組みを実施します。

新着情報

20年10月15日(木)より、12月発表・発売予定のエクリプス クロスPHEVを先行展示中。発売後は、エクリプス クロスPHEVに加え、エクリプス クロスのガソリン車も展示予定。ぜひお越し下さい。

交通のご案内

JR山手線・京浜東北線「田町駅」より徒歩2分
 都営三田線・浅草線「三田駅」より徒歩3分

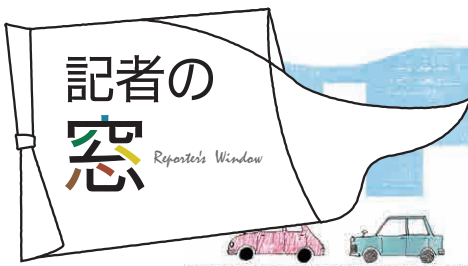


三菱自動車工業／本社ショールームホームページ



【紙面の監修、資料提供】三菱自動車工業





日本経済新聞社

ひらつか とうる
平塚 達

21歳で初めて買った中古車

◎ 大学時代の友人のうちの1人が、札幌市で中古車販売店を経営している。4月に私が自動車業界の担当になってから、たまに電話をかけては車の話で盛り上がる。9月に約半年ぶりに会ったときに、「車に詳しくなくなったなあ」と言われてうれしく思ったのを覚えている。

◎ 彼は学生の頃から車が大好きで、いつも「いつか自分の中古車店を持ちたい」と言っていた。大学の専攻は自動車と関係なかったが、大学の休み時間なども暇さえあればオークションサイトで車の部品を見ていた。

◎ 私が車を好きになったのは彼がきっかけだった。大学3年生の春、当時札幌市に住んでいた私はアルバイトで稼いだ貯金をほぼすべてつき込んで中古車を買った。彼がオークションサイトで格安で見つけてくれた中古のホンダ「オテッセイ」だった。人生最大の買い物に手が震えたことを今も覚えている。

◎ 簡単な修理やタイヤ交換は、できるだけ自分たちの手で対応した。壁にぶつかってヘッドランプを壊して

しまったときは、廃車集積場にヘッドランプを買い取りに行き、自分たちで付け替えたこともある。

◎ 手間をかけるほど愛着がわいた。手間がかかるのは修理に出すお金がなかったからなのだが、今思い返すと2人で油まみれになりながら車をいじったのはいい思い出だ。

◎ 就職が決まって都内に引越すときに、2年ほど乗ったオテッセイとお別れした。最後の晩には家を引き払ってしまったので、車に泊まった。天井を眺めていると、名残惜しい気持ちかわいてきた。

◎ 若者の「クルマ離れ」が叫ばれて久しい。運転免許を持っていない同世代も少なくない。私自身も、都内で車を所有するハードルは高いと感じる。電車やバスなど公共交通機関が網羅しているので、日常で車が「必要だ」と感じることはあまりないし、駐車場にかかる費用も高い。

◎ だが、車が消費財の代表格であり、ライフスタイルと密接に関わる存在であることは変わらない。普段の生活圏を離れて山や川など自然

を感じたいとき、好きな音楽を聴きながら家族や友人と話したいとき、車は私たちのそばにある。

◎ カーシェアリングなど車の使い方は多様化しつつある。継続課金（サブスクリプション）による所有など、これまでになかった選択肢も増えた。身の回りの同世代では、週末にカーシェアでかっこいい車に乗り、ドライブに出かけるのを楽しみにする人も多い。

◎ 記者として自動車業界を担当することになって、自動車産業の規模の大きさを知った。金額的な大きさでも、雇用の面でもまさに日本産業の大黒柱とも言わべき存在だということを知った。

◎ 自動車業界は自動運転など「CASE」と呼ぶ次世代技術の登場に代表される変革期にある。業界再編も盛んになるなか、世界では新型「コロナウイルス」の感染拡大が猛威をふるっている。大変な時代に担当になってしまったと感じる一方で、この激変の時代に記者として自動車業界を担当できることを誇りにも思う。



ジョアン・ミル選手がMotoGP 2020シーズンの ライダーチャンピオンを獲得 チームスズキエクスターも初のチームチャンピオンを獲得



11月15日にスペインのリカルド・トルモ・サーキットで行われた二輪車レースの最高峰「FIM*ロードレース世界選手権(MotoGP)」第14戦において、「GSX-RR」でMotoGPクラスに参戦するチームスズキエクスターのジョアン・ミル選手が7位でゴールし、ライダーズポイントを171ポイントに上げたことにより、残り1戦を残して2020シーズンのライダーチャンピオンを獲得した。

スズキのライダーがタイトルを獲得するのは、2000年のケニー・ロバーツ・ジュニア選手以来、20年ぶりとなる。また、アレックス・リンス選手も4位でゴールしたことにより、チームポイントを309ポイントとし、チームチャンピオンも獲得。チームスズキエクスターとして初のチームチャンピオン獲得となり、2冠を達成した。

*FIM(国際モーターサイクリズム連盟)

スズキ株式会社 代表取締役 社長 鈴木俊宏 のコメント

「新型コロナウイルスの影響を受けた厳しい2020シーズンに、MotoGPチャンピオンを獲得したチームスズキエクスター、そしてジョアン・ミル選手を心より祝福いたします。

今年は「スズキの100周年」という節目に、世界最高峰の二輪レースでチャンピオンを獲得してくれました。二輪事業は先人がはじめ、成長してきた、スズキの主要事業の一つです。これまでスズキを応援し、サポートくださったお客様、ファンの皆様、販売店様、そして支援してくださったサプライヤーやスポンサーの皆様、プリビオをはじめとするチームスタッフ、テストライダーのギントーリ、そして素晴らしい成績を残してくれたリンス、ミル、支えてくれた本社のスタッフに感謝申し上げます。

2015年にMotoGP復帰以来、数々の苦難を乗り越えて、一年一年着実に成長し、遂にチャンピオンを獲得したこのチームを誇りに思うと共に、次の100年に向けて、よいスタートを切ることができたと考えております。」

(SUZUKI ホームページより)